2023年12月26日（火）【外為Ｌａｂ】松田哲
タイトル：【今年（2023年）の最後の週です】

早いもので、今年も残すところあとわずかになりました。

昨日（2023年12月25日）がクリスマスの当日だったので、クリスマスも終わり、今週末は、晦日、大晦日です。

振り返ると、今年（2023年）も、「激動の年」であった、と感じます。

ウクライナとロシアの戦争は続き、一段と混迷している、と考えます。

解決のめどが立たないまま、年末年始を迎えることになります。

そして、イスラエルとガザの「戦争状態」も勃発し、こちらも解決のめどが立たないままです。

イスラエルとガザに関しては、「戦争」「戦闘」というよりも、イスラエルによる「虐殺」と考えます。

こういった「戦争」「戦闘」を解決できない状況に、無力感、失望感を禁じ得ません。

++

日本国内に目を向けると、「自民党の裏金問題」が勃発しました。

この問題も、年を越してからも、めどが立たないままとなることでしょう。

++

世界の金融市場、外国為替市場を眺めると、来年（2024年）は、各国の金融政策の変更が見込まれます。

米国（ＦＲＢ）は、利上げから利下げに転換する方向性が見えています。

欧州（ＥＣＢ）は、その立場を鮮明にしていませんが、米国（ＦＲＢ）が上述の立場ならば、米国に遅れて、欧州（ＥＣＢ）も利上げから利下げに転換する可能性が高い、と考えます。

ただし、欧州（ＥＣＢ）は相応の期間、金利の高止まり状態が続くのだろう、と考えます。

それに対して、日本（日銀）の金融政策は、米国（ＦＲＢ）とは逆で、大規模の金融緩和政策から脱却して、利上げに向かう、と考えます。

各国の金融政策の違いは、金融市場、外国為替市場に大きく影響するので、来年（2024 年）のマーケットも、簡単には儲からない、難しいものになる、と考えています。

各国の金融政策の方向性は、誰にでも分かるものですが、それを実行するタイミング（時期）を、事前に予知することは非常に難しく、また、その大きさ（金融政策変更の程度）を、事前に当てることも難しい技と考えます。

タイミングと大きさは、日々のマーケットでの値動きや反応に注視して、判断していくしかないので、日頃の努力が重要になります。

そう考えると、来年（2024 年）は、年初早々から、真面目にマーケットに向き合う必要がある、と覚悟しています。

++

換言すれば、
「今週は、来年（2024 年）に向けて体力を温存し、英気を養う時」
と考えます。

皆様、良い年末年始をお迎えください。

++
++

（2023 年 12 月 26 日東京時間 14：45 記述）